

巻頭言

コロナ禍を経て

一般財団法人 日本建築総合試験所
常務理事 小南 和也



日頃より当法人の業務に格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

長く続いた新型コロナウイルス禍ですが、5月8日をもって新型コロナウイルス感染症の位置付けが「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」になり、基本的に個人・事業者の判断による感染対策へ移行しました。この3年間様々な局面で感染対策が取られ、働き方をはじめ暮らし方、人との接し方など大きく生活が変化しました。なかでもコロナ禍での働き方改革の推進と相まって大きく変化したのが会議形態ではないでしょうか。コロナ禍前では参加者全員が1カ所に集まり対面していたものから、テレビ会議として専用設備で複数個所間での会議となり、今では個人のパソコンを介してのweb会議が主流となっています。参加場所の制約がない、移動時間、コストが削減できるなどのメリットが挙げられ、特に意思決定の迅速化やコミュニケーションツールとしては大いに活用されています。しかしその反面、参加者の雰囲気というか肌感的なものが分かり難く議論が深まらない、グループ内での意思確認が難しい、発言のタイミングがつかみ難いなど、昔気質の私には言葉だけのやり取りに聞こえる場合もあり、なかなか慣れませんが、これからは対面に戻りつつもWeb会議併用が主流となることでしょう。

昨年、GBRCにおける長期経営計画である「GBRCビジョン2030」を策定し1年が経過しました。このビジョンではこれまでの計画にはない具体の財務目標を掲げ、更にその目標が高い数値を目指したものでしたが、残念ながら初年度での達成は叶いませんでした。しかしその財務目標達成に向け3つの事業目標を推進し、各部署でのIT化、GBRC全体の情報集約システムの構築、製品認証センターでのクラウド申請システムの利用が申請者の90%を超えるなど着実に成果が出ており、併せて多様な人材育成と在宅勤務などの働き方改革を推進して目標達成に向けて邁進していきたいと考えています。

コロナ禍を経てまだまだ不安が残る中ですが、「災い転じて福となす」という言葉があるように、働き方や暮らし方などをコロナ前に戻すのではなく新たな進化を遂げるために、この3年間のコロナ禍での経験を活かしていきたいものです。